



しづはた営農経済センターだより

静岡市葵区下 1459-1 ☎ 294-9330

センター長	茶	野菜・水稲・苺	果樹・有害鳥獣	女性部	購買
伊藤	佐藤・武田	松尾	榮	漆畑	市川・萩原 大幢
配送	加藤・長谷川	大河内地区担当	有賀	梅ヶ島地区担当	望月

《茶》 来年の1番茶土台となる三番茶（母枝）を作る重要な時期です。

《防除》 梅雨時期の病害虫防除が今後の生育と翌年の1番茶に影響します。

☆モチ病の発生が予想される園について（特に露切れの悪い園・山間地は多発生）

防除の度、殺菌剤を使用し、下記の通りの治療効果がある剤が有効です。

◎オンリーワンフロアブル	2,000倍	7日
◎インダーフロアブル	5,000倍	7日
◎スコア顆粒水和剤	2,000倍	7日

（殺菌剤は多少の降雨でも効果はあります！！）

※病気の症状が発生しなくとも、ドイツボルドーA 500倍を早めに散布するのも有効です。

☆1番茶後更新園 更新園でヨモギエダシャクが発生している茶園は、

MR. ジョーカー水和剤 2,000倍 21日（ウンカ・スリップス・ハマキ類の同時防除可）

◎ 2茶摘採後（整枝後）

2茶摘採後、黒褐色に枝が変色するのは輪斑病が侵入可能性アリ

ハマキムシ類	サムコルフロアブル	2,000倍
輪斑病	アミスター20フロアブル	2,000倍

※ アミスター20は、輪斑病に対して整枝後2～3日でも効果があります。

◎ 3茶萌芽期～1葉期

炭そ病・もち病・新梢枯死症	フロンサイドSC	2,000倍	14日
ウンカ・スリップス	コルト顆粒水和剤	2,000倍	混用

《2番茶を摘採しない茶園について》… 1番茶のみ摘採園

基本的に母葉を充実させる為に病害虫の発生を防がないといけません。

（特にモチ病・炭そ病・ハダニ類・ウンカ・スリップス・ハマキ類）

◎時期 6月下旬（2番茶を摘採する時期よりやや遅い硬化した頃）

◎整枝位置 一番茶摘採位置よりやや深め（1番茶葉を無くす位の浅刈り）

※ 山間地については、秋整枝の時期までが短い為2番茶芽を2節残す程度の整枝

茶・果樹 土壌診断 受付中！ 7/7 (金)迄

- ① 土壌を採取後、陰干しし、フルイにかける
- ② ①を約 200g（湯のみ1杯程度）用意
- ③ ビニール袋に住所・氏名・圃場名・作物名を記入

駿府本山秋のお茶まつり 参加者募集中！ 8/25(金)〆切

- ★ 主催 駿府本山お茶まつり委員会
- ★ 内容 紅葉山庭園茶室にて、生産者自らが自慢の「本山茶」を消費者に対して呈茶していただきます。そのお茶の販売も2日間致します。(出展料は無料)
販売用のお茶は、1個500円で、50個ご用意ください。
- ★ 開催日 平成29年11月4日(土)11月5日(日)(参加はいずれか1日)
- ★ 会場 駿府城公園内紅葉山庭園茶室「空海」かお外席
- ★ 申込書は、各営農センター窓口にあります。FAXでの送付もいたします。
- ★ 申込み締め切り 8月25日(金)
- ★ 申込み・お問い合わせは・・・日本茶インストラクター協会静岡市支部
電話 054-653-3103 FAX 054-653-3203

茶園集積推進事業の申込みについて【補助対象】

- ★ 事業主体 農地を借受けられる茶工場・個人の認定農業者
- ★ 対象農地 新規に農地中間管理事業で借受けた筆
※他事業からの乗せ換えの場合は、新規借受け案件が無いと対象になりません。
- ★ 事業メニュー 下記のメニューを同一年度に合計100ポイント以上実施する。

茶樹改良方法	取組メニュー	ポイント
連担のための高さ調整	中切り・台切り	93
	深刈り	37
樹勢回復	土壌改良(堆肥散布)	53
	深耕	51
	初期除草	18

※上記以外にも乗用摘採機関係メニューがあります。

- ★ 助成額 50,000円/10a【1a未満を切り捨て】
- ★ 注意 平成29年度は申請が終了しているため、これから平成30年度の要望のとりまとめます。事業着手できるのは、平成30年4月以降となりますのでご了承ください。

詳細は最寄りの営農経済センターへお問い合わせ下さい。

農薬 特別価格 販売中!! 9/30(土)まで



夏の除草剤キャンペーン ラウンドアップ・バスタ

※ 店頭引き渡しのみ対象です。容量等は店頭でお確かめ下さい。

《水稲》

1、 除 草 用途別除草剤

ヒエ(専用)	クリンチャーEW	ノビエ発芽から5葉期まで
浮き草、ヒルムシロ アオミドロ、表層剥離	モグトン粒剤	部分施用可
イネ科以外の水田雑草	MCP液剤	200ml/10a
	グラスジンM粒剤	落水翌日散布

*MCPはクリンチャーEWと混用可。MCPとグラスジンはどちらか1回の使用。

2、 中干し 田植え後35日頃(分株本数18本)になったら開始する。

ただし、乾田・やせ地については弱く実施！出穂25日前に入水する。

《野菜》 病害虫防除

トマトの尻腐れ対策：カルクロン(カルシウム資材) 400倍 葉面散布 花が咲いた頃が適期
カルシウム資材を使っている場合、水の切りすぎで発生します。気をつけて管理をしましょう。

種 類	病害虫	農薬名	倍率	備考
きゅうり	べと病、黒星病 褐斑病、斑点細菌病	ジマンダイセン水和剤	600倍	斑点細菌効果 前日-2回
な す ※ピーマン	灰色カビ ハダニ	ロブラール水和剤	1,000倍	前日-4回
		ダニトロンフロアブル	2,000倍	前日-1回
		アーデント水和剤	1,000倍	前日-4回(※2回)
トマト	疫病	カスミンボルドー	1,000倍	前日-5回
果菜類	アザミウマ類	劇モスピラン水溶剤	2,000倍	登録のある農薬を 使用して下さい。
		スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	
		アーデント水和剤	1,000倍	
枝 豆	メイガ、カメムシ	トレボン乳剤	1,000倍	21日前-2回
トウモロコシ				7日前-4回

信頼のJA農機

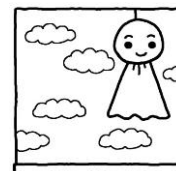
農業機械 大展示会

7月7日(金),8日(土),9日(日)

9:00~16:00 ※9日は12:00まで

吉田公園 (榛原郡吉田町川尻)

《いちご》 【次年度の本圃準備】



1、本圃の除塩（土耕）塩類が集積していると思われる圃場

- ① たん水状態(水田)にする。② ビニールを取り、雨にあてる。
- ③ ソルゴー等を栽培し、圃場の外へ持ち出す。(①～③のうちいずれかの方法で処理する)

2、本圃の消毒

(1)元肥＋土壌改良剤 ⇒ 灌水 ⇒ マルチ掛け ⇒ 太陽熱処理（最低1ヶ月）ビニール下 ⇒
マルチ除去 ⇒ 有効菌の投入 ⇒ 定植

(2)農薬による土壌消毒：バスアミド 又は ガスタード 20～30kg/10a又は
ディ・トラパック油 30～40 kg /10a ガス抜き後 ⇒ 有効菌の投入 ＋元肥 ＋土壌改良材等
クロルピクリン錠剤 10,000錠/10a 被覆して2週間～1ヶ月後 ⇒ 有効菌投入 ＋ 減元肥

おすすめ土改材：あく抜きスーパーベラボン(ヤシ殻) 100 L (圧縮時)：90袋/10a

物理的改善に（気層の増加改善）炭素率：藁の3倍 3年毎 畝だけなら30袋/10a

一度に全部入れるわけではなく、少しずつ土と混ぜていくとふかふかの良い土になります。

おすすめ有効菌：ハイフミンハイブリッドG 15 kg 10袋/10a 有効菌で発根促進！！

【育苗編】炭疽病防除の注意事項

1、露地育苗：雨前後にアピオンE（パラフィン系展着剤）加用で炭疽病防除薬剤散布
葉欠き、芽欠きの後は必ず炭疽病防除！

2、雨よけ育苗：室内がハウス環境（高温、多湿）にならないよう注意



《アスパラガス》

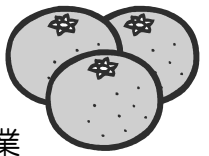
これから雨も多くなるにつれ、カビの発生も多くなってきます。

被害が出始める前に徹底防除をお願いします。

※下の薬剤はアスパラガスに使用できるものを書いています。

病害虫	農薬名	倍率	備考
ヨトウムシ	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	前日 - 2回
ネギアザミウマ	ディアナSC	2,500～ 5,000倍	前日 - 2回
灰色カビ病	アミスター20フロアブル	2,000倍	前日 - 4回

《柑橘》



7月に入り生理落果が終了し、摘果作業をしているところだと思います。温州みかんでは着花量、発芽量ともにバラつきが出ているため、樹の状態を見て摘果作業を実施する必要があるので注意してください。また、はるみ等の中晩柑では2次落果はほとんど落ちないので肥大を促進させるため早期摘果に努めてください。

◆ 温州みかん

防除時期	対象病虫害	農薬名	希釈倍率	使用基準
7月上旬	黒点病	エムダイファー水和剤	600倍	60日-2回
	チャノキイロアザミウマ	キラップフロアブル	2,000倍	21日-2回
	カイガラムシ類	アプロードエースF	1,000倍	14日-2回

※浮皮軽減対策としてバイカルティ 1,000 倍を混用する。

※展着剤のアビオン E 1,000 倍を混合することで雨による流亡が減少し、農薬の付着期間を向上させます。

◆ 果実品質向上管理

果実の品質向上のためにフィガロン乳剤を2回散布する。

	早生温州	農薬混用時	青島温州
1回目	満開後60日	2,000倍	3,000倍
2回目	満開後80日	3,000倍	5,000倍

※樹勢の低下が見られる樹への散布は避ける。また、1回目と2回目の散布期間は20日程度とし、あまり間隔が空くと効果が低下するので注意する。

◆ 中晩柑

防除時期	対象病虫害	農薬名	希釈倍率	使用基準
7月上旬	かいよう病	IC ボルドー412	50倍	—
7月中旬	チャノキイロアザミウマ	キラップフロアブル	2,000倍	21日-2回
	黒点病	ペンコゼブ水和剤	600倍	90日-4回

実肥 中晩柑類は7月中旬頃果実肥大が盛んになるので早期摘果に努めるとともに実肥を実施する。

● ハウスいちじく

7月中旬 さび病 アンビルフロアブル 1,000倍 前日-2回

※収穫時期になるので黒かび病の発生に注意する。

● 露地いちじく

7月上旬 スリップス・キボシカミキリ 劇モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 前日-3回
 さび病 トリフミン水和剤 2,000倍 7日-3回
 黒かび病 トップジンM水和剤 1,000倍 7日-5回
 7月中旬 カンザワハダニ バロックフロアブル 2,000倍 前日-1回
 7月下旬 黒かび病 ロブラール500アクア 1,000倍 3日-3回

● 梅

7月中旬 ウメシロカイガラムシ 劇スプラサイド乳剤40 1,500倍 14日-2回

● 柿

7月上旬 落葉病・炭疽病 エムダイファー水和剤 500倍 45日-2回
 7月中旬 カキノヘタムシガ フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 7日-2回

※劇のマークが付いている農薬は購入に印鑑が必要になります。